



第1回小中高等学校における
モビリティ・マネジメント教育情報交換会
令和7年(2025年)8月9日

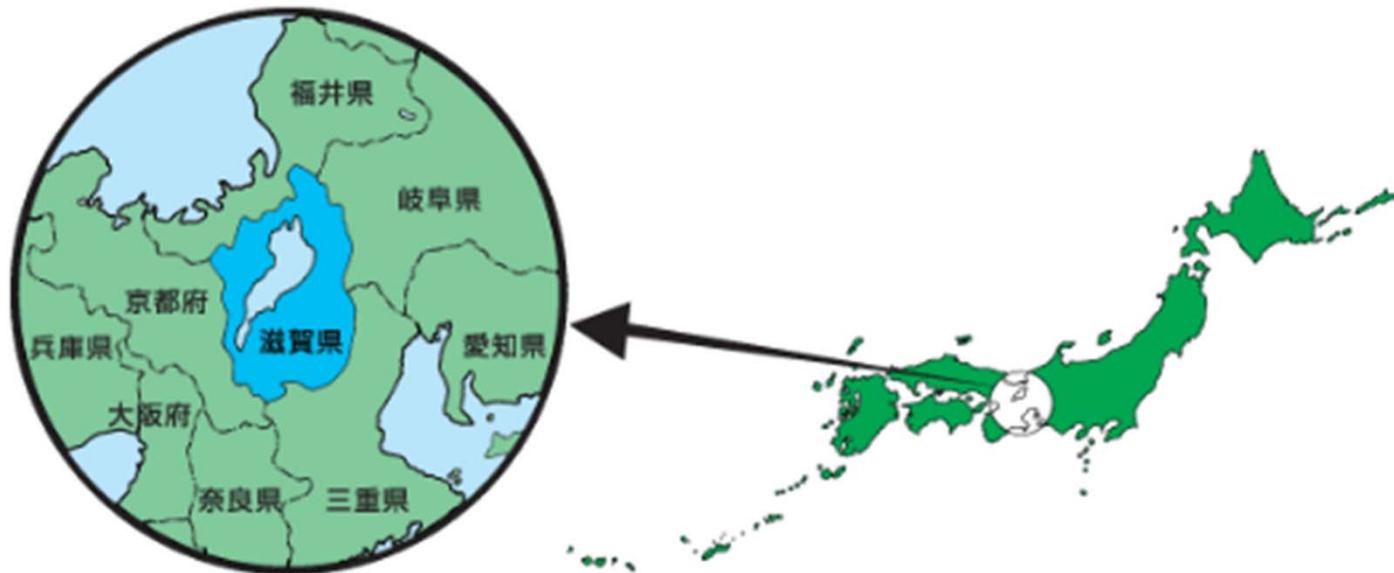
小学校における自治体主導のMM教育



滋賀県土木交通部交通戦略課



滋賀県の基本情報



- 人口:1,397,221人(令和7年5月現在)
県南部では増加傾向の市もあるが、平成25年をピークに年々微減傾向。
※年少人口割合(15歳未満の総人口に占める割合)は約13.0%で全国2位(令和5年10月現在)。
- 面積:4,017.38km² ※うち約1/6が琵琶湖
- 地勢:周囲を1,000m級の山々に囲まれる。支流を含めると約450本の河川が琵琶湖に注ぎ、瀬田川から淀川を經由して大阪湾へ流れる。
県庁所在地の大津からJRで京都まで約10分、大阪まで約40分と至近で、京阪神のベッドタウンとして発展。



滋賀県の交通特性

※ 長浜～京都間は
通称「JR琵琶湖線」



【鉄軌道】

- ・ 琵琶湖を一周するかたちでJR線が運行。
- ・ 県の東部を東海道新幹線・東海道本線（琵琶湖線）が通り、名古屋・京阪神を結ぶ。
- ・ 湖東地域では令和6年4月から公有民営による上下分離方式に移行した近江鉄道線が運行。大津市内では京阪電気鉄道が京都市中心部へ直通。

【バス等】

- ・ 鉄道が結ばれていない地域間を結ぶ民間路線のほか、各市町がコミュニティバス、デマンドタクシー等を運行。



滋賀県の交通特性

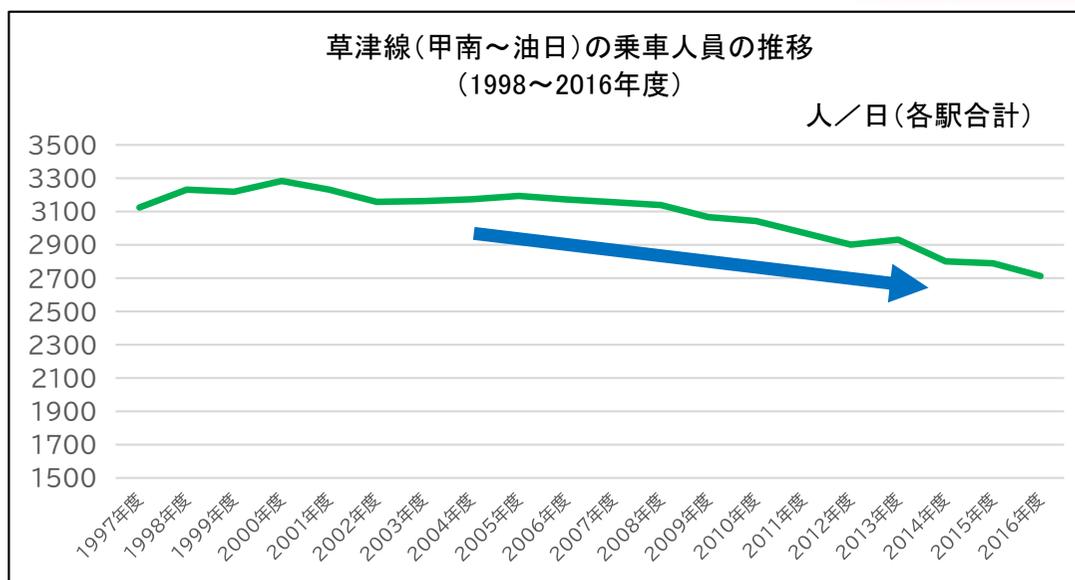
本県の交通をとりまく現状・問題

- 地方部では自動車依存度も高く、1人あたり1台ずつ所有している世帯も多い。
- 鉄道の乗車人員が低迷したり、路線バスが廃止されたりする地域も発生しており、公共交通の維持・確保が大きな課題に。

不満度の高い分野(「感じない」と「どちらかといえば感じない」を答えた比率)

順位	項目	比率
1	自転車歩行者道や身近な公共交通機関などの整備	50.5
2	地震や風雪水害、土砂災害に備えた施設の整備・保全	34.1
3	人やものが行き交う広域交通ネットワークの形成	32.8
4	在宅医療の推進や介護サービス、医療施設の整備	31.7
5	歴史や文化、自然などの地域資源を活かした観光の振興と滋賀のブランド力の向上	31.5

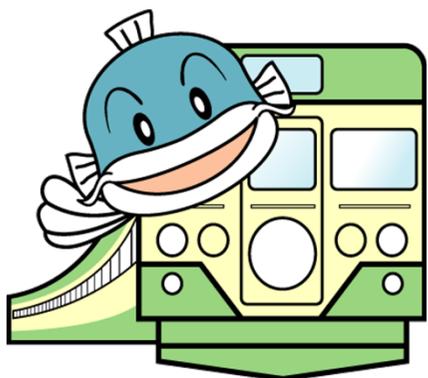
出典：滋賀県政世論調査（平成28年度）





滋賀県の交通特性

将来にわたって公共交通を維持していくためには、
幼少期から公共交通に親しんでもらわなくては！



県が主体となって「交通環境学習」をしよう！

1. 交通環境学習の導入経過



1. 交通環境学習の導入経過

～平成28年度

○県内一部の市で滋賀県バス協会・バス事業者と連携し、遠足や社会見学の事前学習として、実車を用いた学習が既に実施されていた。

□成果

・スムーズな校外学習の実施につながるため学校からは好評

□課題

・市単独事業であり、県内全域に広まらない。

・効果・実施のしやすさの両面で有効なプログラムや方法・体制等についての検討が不十分。





1. 交通環境学習の導入経過

平成29年度～令和2年度

- 「**近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会**」を立ち上げ、4年計画で交通環境学習を普及させるための検討を開始。
- 「**滋賀県の地域に応じた交通環境学習の普及・浸透に向けた基盤構築事業**」※を4か年にわたり実施。

平成29年度 ～コンセプトメイキング～

- 課題検討、先進事例の把握およびこれまで実施してきた小学校の実態把握・意見聴取を行い、取組内容の方針を検討

平成30年度 ～ツール検討～

- モデル校を選定。各小学校における交通環境学習プログラムを検討。
- 担当教員と連携し、2年生活科、3・4年総合学習、4年社会科、5年総合学習、6年総合学習の5単元で活用できるツールを作成し授業実施。
- 全19市町中9市町で実施。全市町への展開に向けて周知・サポート体制の構築が課題。**

※(公財)交通エコロジー・モビリティ財団の「小中高等学校におけるモビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)の普及に向けての支援事業」を活用した。



1. 交通環境学習の導入経過

平成29年度～令和2年度

平成31年度 ～ツールのブラッシュアップ～

○これまでの実施状況を踏まえ、①既存資源の有効活用、②新たな視点での取組、③周知方法・サポート体制の改善の3点に絞ってツールをブラッシュアップ。

①既存資源の有効活用

・バスの乗車体験、鉄道の乗り方体験を発展(2年・生活科)

②新たな視点での取組

・福祉学習の単元の趣旨を踏まえた、実車を活用した障害者体験(3、4年・総合学習)

・県内各地域の特性を学習する単元の趣旨を踏まえた、鉄道すごろく(4年・社会科)など

③周知方法・サポート体制の改善

・学習ツールを整理し、取組を周知するパンフレットを作成。





1. 交通環境学習の導入経過

平成29年度～令和2年度

令和2年度 ～ツール完成・手順確立～

○学校で活用できるツールを完成させ、2～6年生までの学年縦断型授業を確立。

低学年：バスの乗車体験等を軸とした出前授業

中学年：教科・単元に絡めたツール提供

高学年：実フィールドを対象とした体験機会の創出

○令和元年度に作成した周知パンフレットを、年度初めの学習計画を行うタイミングで、各市町教委を通じて県内全218校（当時）に対して配布。



滋賀県 交通環境学習 のご紹介
子どもたちに身近な“交通”の素材を
授業に活用してみませんか？



行政やバス会社が、バス車内や教材、出前授業等の素材をご提供します！



2年生から6年生まで、生活科や社会科や総合的な学習等の授業を深められます！



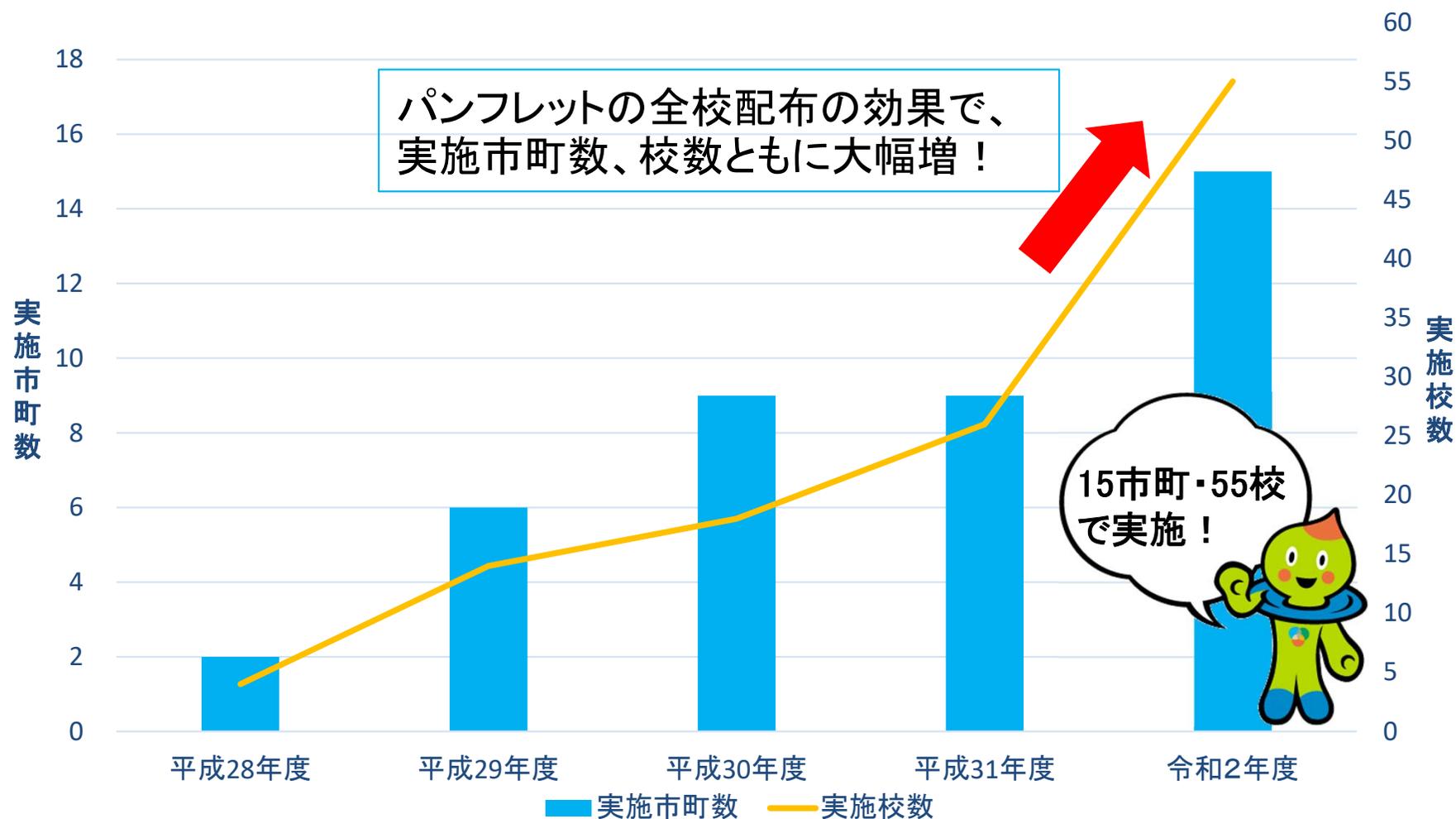
滋賀県土木交通部交通戦略課

周知パンフレット（令和2年度版）



1. 交通環境学習の導入経過

実施市町数と校数の推移 (H28～R2年度)





1. 交通環境学習の導入経過

令和6年度

市町	小学校／幼稚園・保育園、(カッコ内は学年)	
大津市	9校	雄琴小(2)、下阪本小(2)、富士見小(2)、南郷小(2)、真野北小(2)、青山小(2)、仰木の里東小(2)、和邇小(3)、小野小(1・2)
彦根市	9校	城西小(2)、城北小(2)、鳥居本小(2)、河瀬小(2)、高宮小(2)、城陽小(2)、稲枝東小(2)、稲枝西小(2)、若葉小(2)
長浜市	2校	神照小(2)、北郷里小(3)
近江八幡市	7校	島小(2)、沖島小(4)、金田小(2)、武佐小(2)、桐原東小(2)、安土小(2)、老蘇小(2)
草津市	7校	老上西小(2)、笠縫小(2)、草津第二小(2)、矢倉小(2)、笠縫東小(2)、南笠東小(3)、洪川小(2)
守山市	3校	守山小(2)、河西小(2)、立入が丘小(2)
栗東市	1校	大宝東小(特別支援)
甲賀市	12校	伴谷小(2・4)、柏木小(2)、綾野小(2)、伴谷東小(2)、大野小(1・2)、甲南第一小(2)、甲南第三小(4)、甲南中部小(2)、希望ヶ丘小(3)、雲井小(2)、多羅尾小(1~6)、信楽小(2)
野洲市	2校	祇王小(2)、三上小(2)
湖南市	1校	三雲東(2)
高島市	1校	安曇小(2・3)
東近江市	9校	御園小(2)、八日市北小(2)、八日市西小(2)、五個荘小(2)、愛東南小(2)、湖東第二小(2)、蒲生北小(2)、能登川西小(2)、能登川北小(2)
米原市	1校	伊吹小(2)
日野町	3校	日野小(2)、南比都佐小(2)、必佐小(2)
竜王町	1校	竜王西小(2)
愛荘町	1校	愛知川東小(2)
豊郷町	2校	豊郷小(2)、日栄小(2)
甲良町	2校	甲良東小(2)、甲良西小(1・2)
合計	18市町 73校	

過去最多の
18市町で実施！



2. 本県の交通環境学習の目的



2. 本県の交通環境学習の目的

交通環境学習の目的

- 公共交通に親しみを持ってもらうことを通して、地域問題や環境問題に関心を持ってもらう。
- 幼少期から地域の公共交通に親しみをもち 自発的にエコ交通を選択できる人間を育てる。

滋賀県におけるMM教育の考え方・コンセプト

【滋賀の交通の特性】

- ◆ 自然や地勢、歴史と関わりが深い(古くから交通の結節点として栄えた)
- ◆ 県土をつなげる交通(琵琶湖環状線など)
- ◆ 多様な交通施策のバリエーション(幹線鉄道、地域鉄道、デマンド交通など)

【学習の視点】

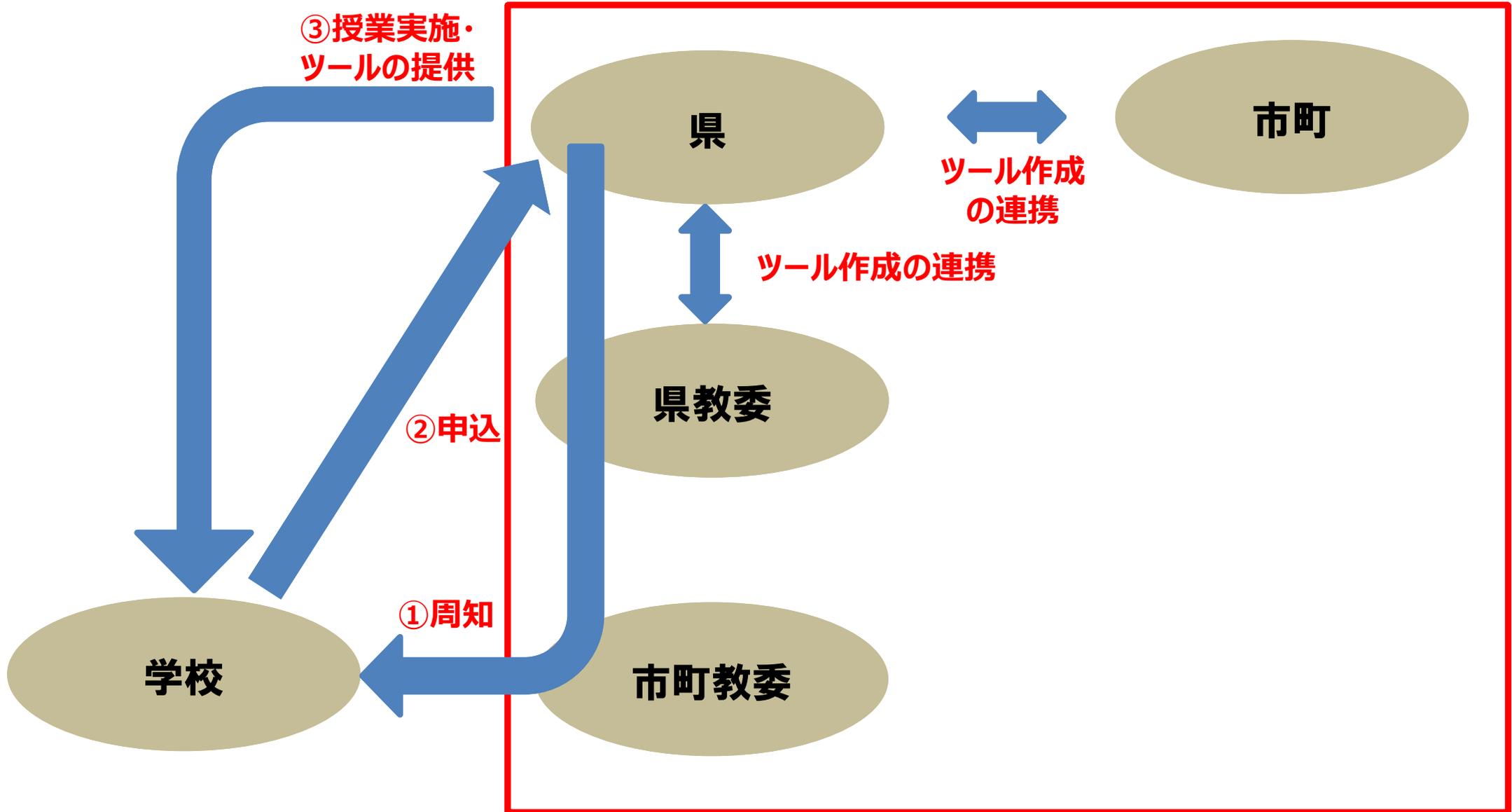
- ◆ 滋賀の交通を通じ、地域の様子や人の暮らし・思いを知るとともに、文化・交流を大切にし、社会の一員としてできることを見つけ、行動できる人づくり・教育へ寄与。
- ①身近な交通から地域への視野を広げる
 - ②交通の成り立ちや工夫から、社会のしくみや暮らし、課題を理解
 - ③交通・まちの変遷から、歴史・文化や地域への愛着を醸成

3. 学習プログラム例



3. 学習プログラム例

《授業実施体制イメージ図（座学）》





3. 学習プログラム例

2年
座学

座学 1	身の回りの公共交通						
内容が特に マッチする 学年・教科	2年生 生活科	実施 形式	資料提供	必要 時間	約10分	素材	パワー ポイント

座学 2	公共交通のマナー						
内容が特に マッチする 学年・教科	2年生 生活科	実施 形式	資料提供	必要 時間	約15分	素材	パワー ポイント

○滋賀県のこだわり
・どの学年、教科で活用可能か明記することで、公共交通になじみのない先生にもイメージを持っていただく。

お出かけの時、どうやって行く？

こんなのりものもあるよ！

しがけんを走る電車たち

しがけんの鉄道

公共交通 ○×クイズ！！

●バスと車では、バスのほうがたくさんの方がのれる！ ○×？

公共交通 マナーについて

「みんなが気持ちよく…」バスや電車は、たくさんの人がつかうから「マナー」が大切です。

「みんなが気持ちよく…」バスや電車は、たくさんの人がつかうから「マナー」が大切です。

公共交通 ○×クイズ！！

●バスや電車は、みんながのれる。○×？

マナーについて かんがえよう

「みんなが気持ちよく…」バスや電車は、たくさんの人がつかうから「マナー」が大切です。

マナーについて かんがえよう

「みんなが気持ちよく…」バスや電車は、たくさんの人がつかうから「マナー」が大切です。

おわりに…

●みんなが気持ちよくのれるバスや電車は、みんなが気持ちよくつかうから、マナーが大切です。

●「マナー」とは、「みんなが気持ちよくつかうためのしぐさのこと」。

●バスや電車では、「マナー」を身につけてみんなが気持ちよくのれるようにしよう。



3. 学習プログラム例

2年
座学

公共交通

○×クイズ!



●バスや電車は、車いすの人も^{でんしゃ}のれる。^{くるま}
○?×?



たがちょうの電車



●おうみ鉄道



おうみ鉄道の電車



たが たいしゃほええき
多賀大社前駅



えき かつどう
駅のおそうじ活動

「えきちょうがちゃこん」と
「たがゆいちゃん」も
おそうじしたよ!

○滋賀県のこだわり

- ✓ アニメーションやクイズをはさみながら、低学年にも飽きの来ない内容に。
- ✓ 各市町に特化したページを数ページ作成し、親しみやすく。
- ✓ 配布するPPデータのノートにセリフを記載し、先生の負担を軽減。



3. 学習プログラム例

**2年
座学**

座学 3	バスの乗り方					
内容が特に マッチする 学年・教科	2年生 生活科	実施 形式	資料提供	必要 時間	約15分	素材 パワー ポイント
内容						
<ul style="list-style-type: none"> ■ バスの乗り方について、パワーポイントを活用して学びます ■ 乗合バスと観光バスの違い等を写真で確認しながら学びます。 ■ 安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。 						
提供素材例						
<ul style="list-style-type: none"> ■ バスの乗り方に関する資料 						

座学 4	電車の乗り方					
内容が特に マッチする 学年・教科	2年生 生活科	実施 形式	資料提供	必要 時間	約15分	素材 パワー ポイント
内容						
<ul style="list-style-type: none"> ■ 電車の乗り方について、パワーポイントを活用して学びます。 ■ 安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。 ■ 切符の購入体験(体験5)と組み合わせると効果的です。 						
提供素材例(例:JR)						
<ul style="list-style-type: none"> ■ 切符の買い方、電車の乗り方に関する資料 						



3. 学習プログラム例

2年
座学

バスからおりる前は・・・？①

- おりるバスていがちかづいたら、ボタンをおして運転手さんに、あいずをしましょう。



つぎのバスてい

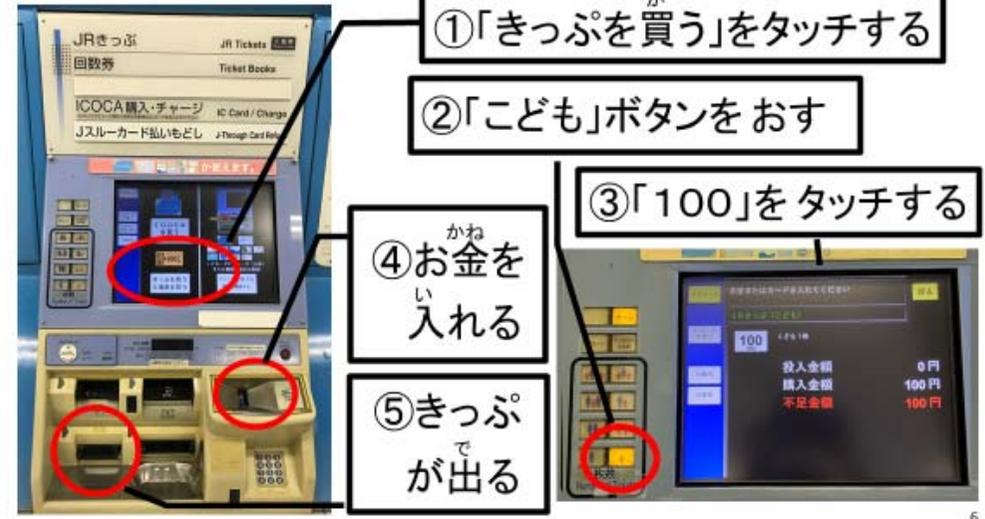


しゃない
車内のアナウンスやけいじばんで、おりるバスていが出たら「ボタン」をおしてね。

バスがとまるまでせきを立たないでね。
バスはゆれるのでキケンだよ。

きっぷを買いましょう②

- 「けん売き」でお金をはらって、きっぷを買いましょう



○滋賀県のこだわり

- ✓ 配車できない学校にもバスの乗り方をマスターしてもらえよう資料を工夫。
- ✓ 券売機の使い方もスライドショー形式で楽しく学べるように。



3. 学習プログラム例

2年 体験

体験 1	バスの乗降体験						
内容が特に マッチする 学年・教科	2年生 生活科	実施 形式	体験 サポート	必要 時間 <small>※20分程度目安</small>	約20分	素 材	実車 バス

実施内容

- バスを小学校へお持ちし、乗降体験を行います。
- バス事業者よりバスの乗り方について説明します。
- 実際のバスを活用した学習であり、実践的な内容です。

※道路、校庭の状況等により、バスの持ち込みが出来ない場合があります。
(他の場所を借りていただいで実施することも可能です。)

実施例

- バス事業者によるバスの乗り方の説明
- バスの乗車体験
乗車→整理券を取る→座席に座る→料金表の見方や車内マナーの説明
→降車ボタンを押す→運賃を払う(お金券)→降車

体験 5	電車の切符購入体験						
内容が特に マッチする 学年・教科	2年生 生活科	実施 形式	資料提供	必要 時間	1人あたり 約30秒	素 材	模擬 券売機 (ポスター)

実施内容

- 模擬の券売機(ポスター)を作成し、学校へ提供します。
- 1人1人切符の買い方を練習します。
- 電車の乗り方(座学4)と組み合わせて学習すると効果的です。

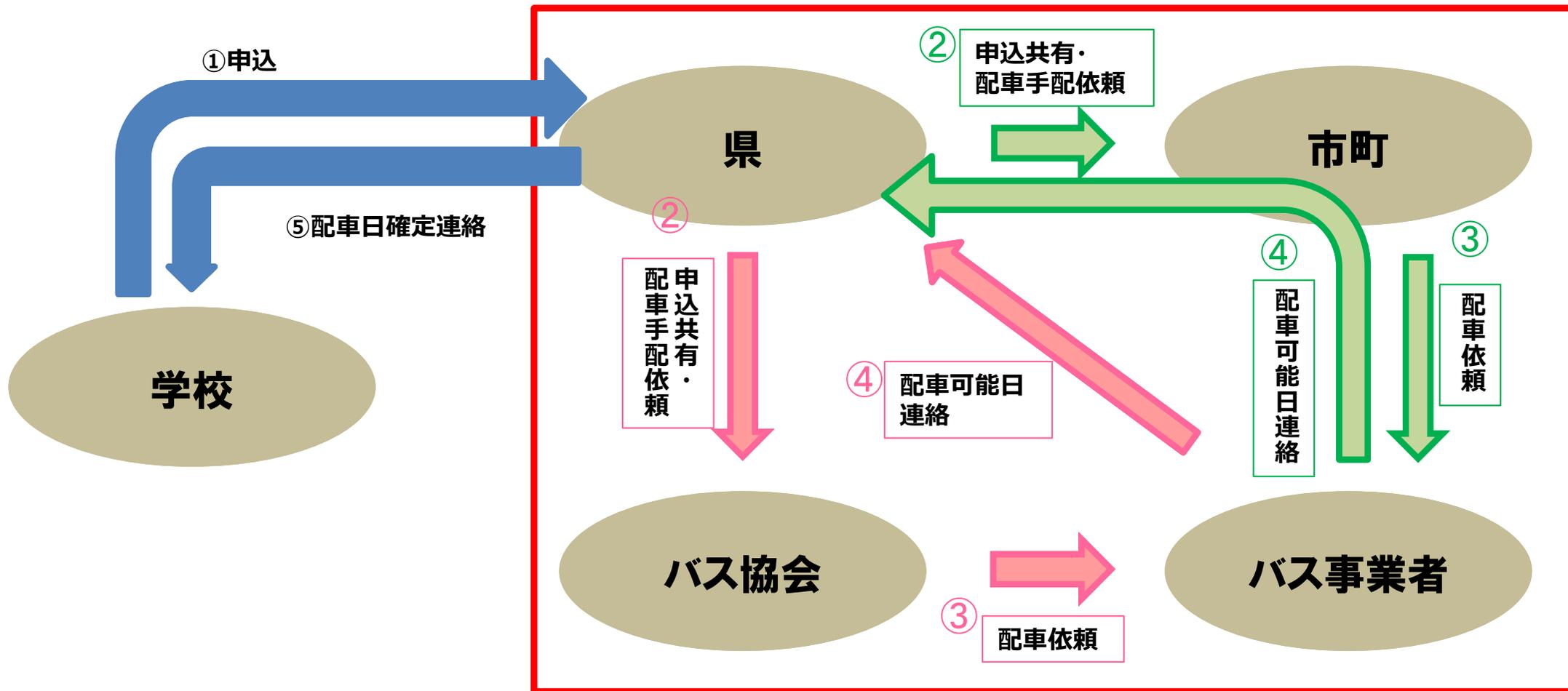
提供素材例

- 模擬券売機・模擬切符



3. 学習プログラム例

《授業実施体制イメージ図（バス配車）》



※配車依頼の経路

- ・路線バス配車の場合は、上記**ピンク**で示した経路
- ・コミュニティバス配車の場合は、上記**グリーン**で示した経路



3. 学習プログラム例

2年
体験



○滋賀県のこだわり

- ✓ 可能な限り実車を配車し、実物でなければわからない発見をしてもらう。
- ✓ 鉄道も模擬車両や模擬券売機でリアルな体験を意識。本物の運転士や駅員が来ると、子どもたちの反応も◎



3. 学習プログラム例

3・4年
座学

座学 5	鉄道すごろくゲーム						
内容が特に マッチする 学年・教科	4年生 社会科	実施 形式	資料提供	必要 時間	約45分	素材	すごろく セット

内容

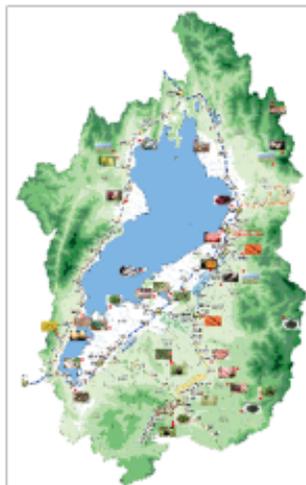
滋賀県内の鉄道路線図をすごろくとし、県内で実際につくられている食材を集めに鉄道駅を進んでいく、ゲーム型の素材です。

ポイント

- 体験を通じて交通の広がり(路線名や乗換駅等)や地域の特徴・特産品を学びます。
- 鉄道すごろくゲームで遊びながら、単元の理解を深めることができます。

提供素材例

- 鉄道すごろくの遊び方に関する資料
- ワークシート



鉄道すごろくワークシート(表)

このシートは、鉄道すごろくゲームのワークシートです。ゲーム開始時に指定された料理に用いる食材を鉄道をつかって仕入れに行くゲームです。カードに書かれているヒントを見て、必要な食材がどこにあるかを考えながら、鉄道を使って探しに行きます。

※ 食材を集めてはやくスタート地点に戻ってきた人が勝利です。

駅名	食材	ヒント
大津駅	大津産の食材	大津産の食材
彦根駅	彦根産の食材	彦根産の食材
草津駅	草津産の食材	草津産の食材
米原駅	米原産の食材	米原産の食材
守山駅	守山産の食材	守山産の食材
彦根駅	彦根産の食材	彦根産の食材
大津駅	大津産の食材	大津産の食材

【ゲームの内容】

- 地産地消カフェの店員となり、ゲーム開始時に指定された料理に用いる食材を鉄道をつかって仕入れに行くゲームです。
- カードに書かれているヒントを見て、必要な食材がどこにあるかを考えながら、鉄道を使って探しに行きます。
- 食材を集めてはやくスタート地点に戻ってきた人が勝利です。

授業の実施イメージ

【鉄道すごろくゲームの説明】…5分

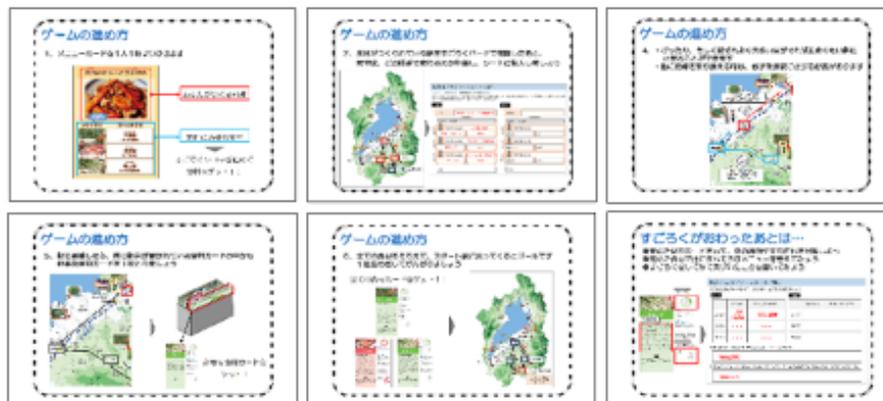
- 鉄道すごろくの内容
- 鉄道すごろくの準備、遊び方 等

【鉄道すごろくの実施】…40分 1班4～6人程度

- 自分が経由する駅がどこにあるのかをシートから探す
- 鉄道すごろくを実施
- 利用した駅や、食材の特徴(時期や主な産地等)をワークシートに記入

【まとめ】…5分

- すごろくをして気づいたことを発表(交通の広がり、地域の特徴、滋賀県の地形 など)



実施した学校の先生感想

- すごろくにより意欲的に参加し、もっとやりたいという子どもが多くみられた。滋賀県の鉄道や特産物について学ぶことができ、教科書だけでは分からない滋賀の魅力に気付くことができた。
- まだまだ地名や何駅があるのかを知らない子どもが多いため、楽しみながら地域の学習にもなった。



3. 学習プログラム例

3・4年
座学

ゲームの進め方

2. 食材がつくられている駅をすごろくボードで確認したあと、まずは、どの順番でまわるのか計画し、シートに記入しましょう



鉄道すごろくワークシート (表)

①メニューを引いて、必要な食材を確認しよう
②早く帰ってくるのに、まますぐを仕入れにどの駅に行くか、どの鉄道を通っていくか計画して行ってみよう
③3つの食材が集まるまで、繰り返して、実施しよう

1回目	2回目
メニュー: 鶏肉のまるごと炙平炒め	メニュー: <input type="text"/>
出発駅: 寺任駅	出発駅: 寺任駅
1 ↓ 利用する鉄道: JR草津線 食材1: 炙平とうがらし 駅1: 甲西駅	1 ↓ 利用する鉄道: <input type="text"/> 食材1: <input type="text"/> 駅1: <input type="text"/>
2 ↓ 利用する鉄道: JR草津線・琵琶湖線 食材2: 豊洲ねぎ 駅2: 安土駅	2 ↓ 利用する鉄道: <input type="text"/> 食材2: <input type="text"/> 駅2: <input type="text"/>
3 ↓ 利用する鉄道: JR琵琶湖線・近江鉄道 食材3: 近江しゃも 駅3: 日野駅	3 ↓ 利用する鉄道: <input type="text"/> 食材3: <input type="text"/> 駅3: <input type="text"/>
順位: <input type="text"/>	順位: <input type="text"/>

○滋賀県のこだわり

- ✓ 地域の特産品を学べるだけでなく、県内の交通の広がりを知ることができ、身近な交通から地域への視野を広げるきっかけに。
- ✓ 4年社会科で学ぶ「自分たちの県の地理的環境の概要」を深める材料に。



3. 学習プログラム例

3・4年 体験

体験 7	バスを活用したバリアフリー体験						
内容が特に マッチする 学年・教科	4年生 総合的 な学習	実施 形式	体験 サポート	必要 時間	約45分	素材	実車 バス

実施内容

- バスを小学校へお持ちし、障がい者の乗降体験を行います。
例) 車いすを利用したの乗降体験
アイマスクや白杖を装着しての乗降体験
- バス事業者より、車いす利用者が乗車される時の対応や、バスの工夫等について説明します。
- バス車両の工夫点を観察することが出来ます。
- 体験学習で資料するワークシートの提供も行います。

※介助の仕方等については事前に学校で説明をお願いいたします。
※体験学習に必要なアイマスクや車イス等は御準備をお願いいたします。
※時間配分の関係上全員が体験できない場合があります。

ポイント

- 実際のバス車両での体験から、普段の生活や移動で自分にできることを実感を持って理解できます。
- すでに取り組まれているバリアフリーの配慮・工夫等から、社会の仕組みを実感することができます。

授業の流れ(例)

※導入、まとめは小学校にて実施願います。

導入	<p>障がい者とともに生きることを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> (例) 白杖、アイマスク等の使用、介助方法を学習する (例) バス車両の仕組みを予想する 	
体験学習 (1時間)	<p>導入授業を踏まえ、障がい者の移動を実感する</p>	
まとめ	<p>体験学習を通じて、自分にできることを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> (例) 体験、観察を通して気付いたことを発表 (バスの工夫等) (例) 公共交通はみんなにとって大切な移動手段であることに気付く 	

授業の実施イメージ

【事業者からの話】…5分

- バス車両の工夫について
- 利用者からの声
- 障がいがあるお客様への対応、気を付けてほしいこと 等

【バス車両でのアイマスク体験】(全員) …20分

- 2人1組(体験者+介助者)に分かれてアイマスクを着用
- 各ペアが順番に乗車し、運賃支払・降車を順番に体験
- ワークシートに体験の感想・気付いたこと等を記入

【バス車両での車イス体験】(代表児童) …5分

- 代表児童(体験者1人、介助2人)による車いす体験
- 感想を発表
- ワークシートに体験の感想・気付いたこと等を記入

【車両観察、質問コーナー】…15分

- バス車両のバリアフリーの工夫や仕組みを観察
- 観察時の疑問や全体を通した事業者への質問



実施した学校の先生の感想

- アイマスクをしながら車両の狭い空間を行き来する体験は、介助の大切さを知る貴重な機会。大人も初めて知ることや工夫が車両にはたくさんあり、子どもたちの発見につながる良い経験になった。
- 実際にアイマスクをしてバスの乗り降りをすることで、身体の不自由な人に対する思いを持ったり、身の回りのバリアフリーに目を向けたりすることができていた。



3. 学習プログラム例

3・4年

体験



○滋賀県のこだわり

- ✓ アイマスクや車イス体験など、既に学校側のカリキュラムで学んでいる単元を、実車を通じて復習。
- ✓ バスに施されているバリアフリーの工夫も学べる。



3. 学習プログラム例

6年
座学

座学 6	地域の公共交通の現状と問題					
内容が特に マッチする 学年・教科	6年生 総合的 な学習	実施 形式	資料提供 or 出前授業	必要 時間	約45分	素材 パワー ポイント
内容						
<ul style="list-style-type: none"> 地域の公共交通の現状・問題と、それに対する行政の支援等(コミュニティバス・乗合タクシーの運行、利用促進の取組等)を紹介します。 						
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 暮らしに密接した公共交通の視点から考えることにより、地域の現状と将来のあり方を考えるとともに、政治の役割・働きについてイメージがしやすくなります。 行政担当者等から話を聞くことで地域で働く人の想い・考えを学ぶ、キャリア学習としても効果的です。 					

提供素材例

- 地域の公共交通の現状と行政支援に関する資料
- 地域の公共交通に関する資料(路線図、利用者推移等)

授業の実施イメージ

○地域の公共交通の現状
問: 地域の公共交通にはどんなものがあるのか、誰が運行しているのか?
→(公共交通の種類) 鉄道、路線バス、乗合タクシー等
→(運行主体) ●●鉄道、●●バス、●●市

問: 地域の公共交通の問題点は?
→自家用車の利用増加、地域の人口が減少
→利用減少により、住民が少ない地域から撤退
→移動手段がなくなり日常生活に支障をきたす

問: 地域の公共交通の役割は?なぜ守る必要があるのか?
→高齢者の外出支援、渋滞解消、交通事故抑制、CO2削減等

○行政や事業者が実施している利用促進等
→小学校への授業、チラシ作成・配布、利用方法の説明会等

○まとめ
地域の交通に関わる人の話を踏まえ、自分たちにもできることは何かあるか



実施した学校の先生の感想

- 滋賀県の交通環境について知り、公共交通は地域の人々にとって大切なものであり、守っていかないと学んでいた。自分の見たことがある乗り物の紹介もあり、より自分事としてとらえていた。
- 働く人々の考えを知ることで自己の成長に生かされた。



3. 学習プログラム例

6年
座学

時刻表の読み方

質問

近江土山バス停から田村神社に一緒に行こうと友達に誘われました。平日の9時台のバスで出発することになりました。



時刻表を使ってどの路線の何時何分のバスに乗ればよいか調べてみよう。



○滋賀県のこだわり
✓ 多くの学校で各校1人1台タブレット端末を持っているので、高学年になれば、時刻表の見方も実践的に学べる。
→その日から自分の身につく学習に！



3. 学習プログラム例

プログラムを組み合わせると...

事例	実車のバスを活用した公共交通の学習 ～身の回りの公共交通、マナー+バスの乗り方 ver.～	2年生 生活科	事例	座学みの公共交通の学習 ～バスの乗り方、電車の乗り方 ver.～	2年生 生活科
必要な授業時間数	2時間		必要な授業時間数	2時間	
必要な準備物	パワーポイントが映写できる環境(電子黒板、PC等)		必要な準備物	パワーポイントが映写できる環境(電子黒板、PC等)	
必要な費用	なし		必要な費用	なし	
関連する単元	生活科「公共物や公共施設の利用」		関連する単元	生活科「公共物や公共施設の利用」	
教科目 学習のねらい	<p>○滋賀県のこだわり ・どの学習をしても学校の費用負担はなし！</p>		<p>にどのような乗り物があるかを知り、公共施設等はみんなで使うものと理解する。公共交通の乗り方を学ぶ。</p>		
ポイント	<p>■ 自家用車とバスの様々な違いを自分で発見できます。</p>		<p>から学んだり、模擬券売機で切符の購入で、より深い学習が出来ます。</p>		

学習内容

座学	<ul style="list-style-type: none"> ■ (座学1)身の回りの公共交通 ■ (座学2)公共交通のマナー
体験	<ul style="list-style-type: none"> ■ (体験1)バスの乗降体験 ■ (体験2)バスの車両観察 ■ (体験3)運転手へのインタビュー

授業の流れ

1時間目 (座学)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校の周りの公共交通について(20分) ■ 公共交通のマナーについて(20分) ■ まとめ(5分) <small>※座学は学校の先生に実施いただきます。</small> 
2時間目 (体験)	<ul style="list-style-type: none"> ■ バスの乗り方の説明(5分) ■ バスの工夫紹介(10分) ■ バスの乗降体験(20分) ■ 車両観察(10分) 

実施した学校の先生の感想

- 自分の住んでいる地域には、何の公共交通があるのかを知り、次おでかけするときはバスに乗りたいたいと話していた子もいた。校外学習の前にマナーについて学べたことが良かった。
- バスの乗車体験や車両観察など実際に自分の目で見て直接話を聞く体験は、座学で教えるよりも子どもたちの印象に残りやすく、授業にも積極的に取り組んでくれた。

学習内容

座学	<ul style="list-style-type: none"> ■ (座学1)身の回りの公共交通 ■ (座学2)公共交通のマナー ■ (座学3)バスの乗り方 ■ (座学4)電車の乗り方
体験	<ul style="list-style-type: none"> ■ (体験5)電車の切符購入体験

授業の流れ

※学校の先生に実施いただきます。

1時間目 (座学)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校の周りの公共交通について(20分) ■ バスの乗り方について(20分) ■ まとめ(5分) 
2時間目 (座学 + 体験)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電車の乗り方について(25分) ■ 公共交通のマナー(15分) ■ 電車の切符購入体験(5分) 

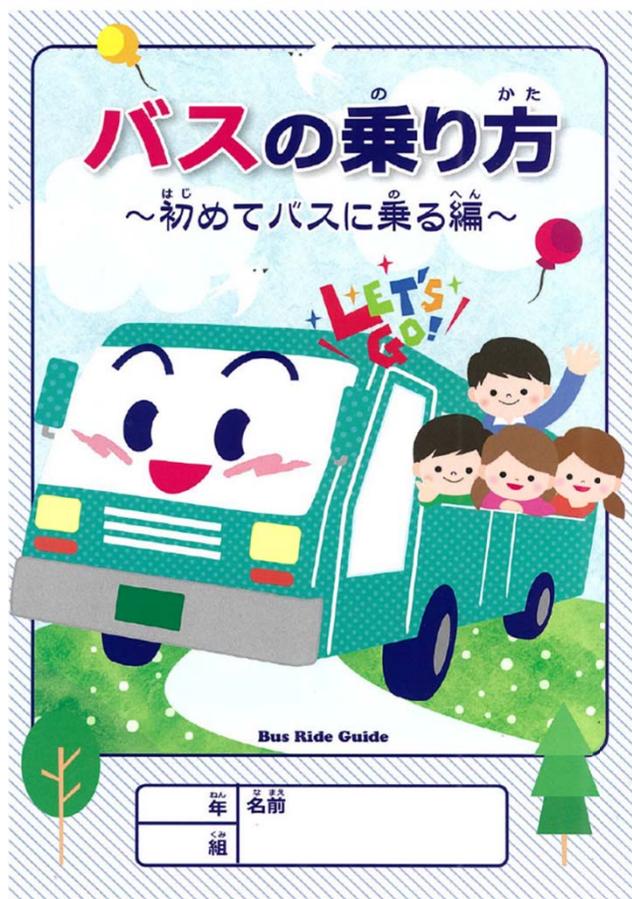
実施した学校の先生の感想

- 模擬の券売機を用いた体験により、子どもたちが積極的に取り組んでくれ、校外学習当日にスムーズに電車に乗ることができた。
- 切符購入体験の掲示物を廊下に貼り出しておくと、何度も練習する児童がいて、効果的だった。
- 公共交通に愛着がわき、普段の生活の中でバスや電車に意識が向くようになった。途中途中でクイズがあり、最後まで楽しく話を聞いていた。



3. 学習プログラム例

ほかにも・・・



交通環境学習に係るアンケートへの御協力について

滋賀県では、県内各小学校において、小学生を対象とした「交通環境学習」を実施しています。

より効果的な授業実施のため、保護者さまの御意見を伺いたく存じます。右のQRコードから御回答をお願い致します。(所要時間は5分程度です)



■ 背景

自動車依存の高い滋賀県では、道路の渋滞や環境汚染、利用者の減少や運転手不足などによる公共交通サービスの低下など、様々な場面で良くない影響が出てきています。

そこで、滋賀県ではこれらの問題を解決するため、「幼少期から地域の公共交通に親しみをもち、自発的に環境にやさしい交通行動を選択できる人間を育てること」を目的とした「交通環境学習」の実践と普及に取り組んでいます。

■ 交通環境学習とは

県内の小学生を対象に、以下のような授業を実施しています。なお、令和6年度には県内73校約4,100名の児童に受講いただきました。



例) 公共交通のマナー

実際にバス車両を使った乗降体験・バリアフリー体験

JRや近江鉄道社員による電車の乗降体験(教室での模擬体験)

※学習の様子は裏面にて。

滋賀県土木交通部交通戦略課 管理係

担当：古家、井岡

TEL：077-528-3681

MAIL：hc00@pref.shiga.lg.jp

○滋賀県のこだわり

✓ バスの配車を実施した学校へは、1人ずつ「バスの乗り方」冊子(バス協会作成)と鉛筆を配布。

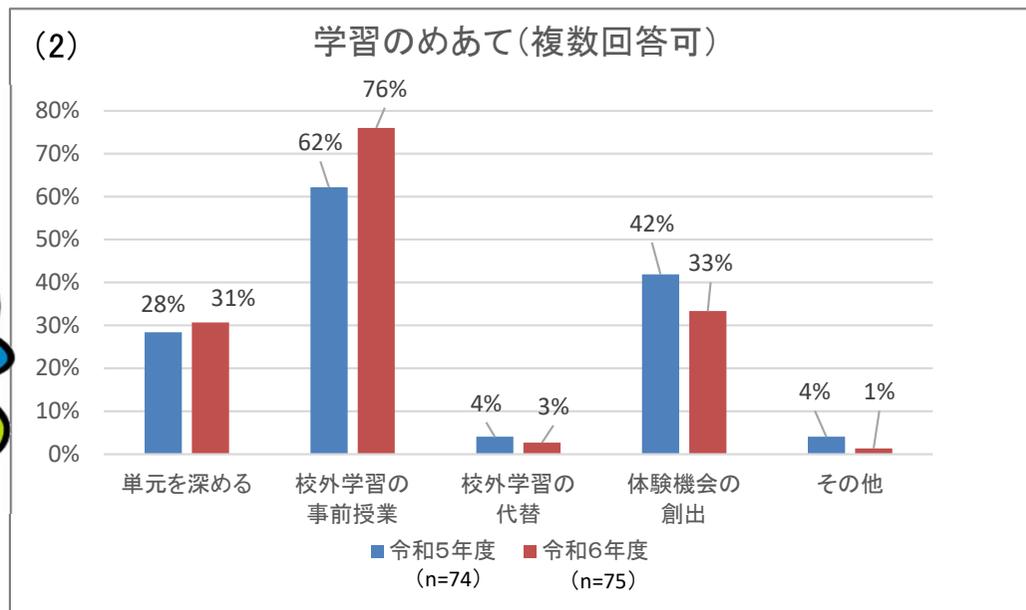
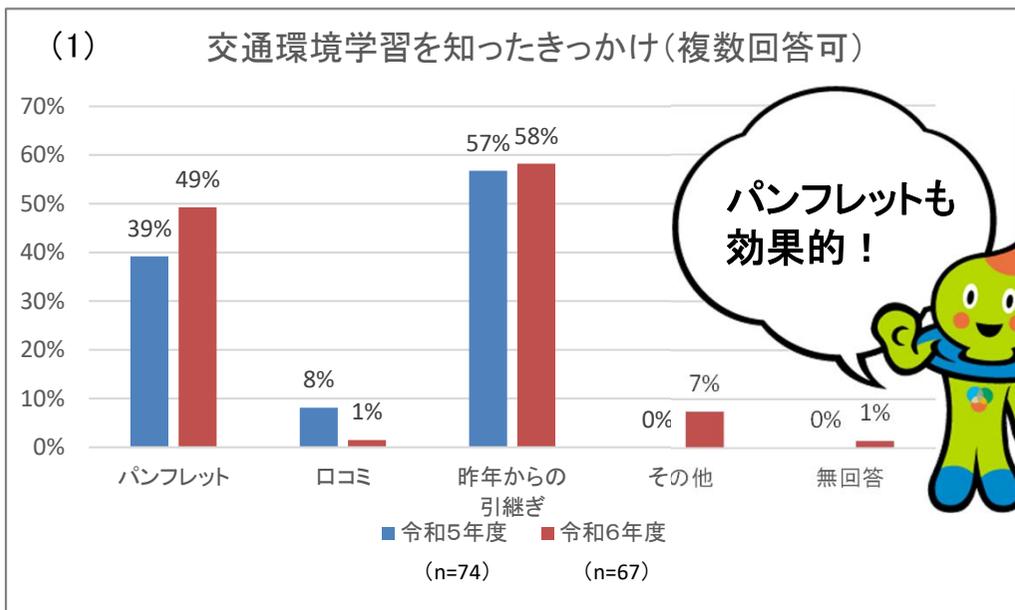
→持って帰って、親に学習内容を話してもらおうきっかけ(=保護者へのMM)づくり

4. 教員・保護者からの声



4. 教員・保護者からの声

「4-1 R6教員アンケート結果」



★自由記述の回答例(原文ママ)

- ・バスの乗り方を実際体験でき、夏休みバスに乗っていろいろな所へ行ってみたいと、楽しみにしている。(2年)
- ・子どもたちも意欲的に学習に取り組んでいた。日々の業務に加えて作成することはかなり負担になるので助かる。(2年)
- ・自分たちの住む以外の県内の地域に関心をむけられたとともに、鉄道網の広がりを感じることができた。(3年)

○成果

- ・特に低学年～中学年にとって、実物素材を用いた学習は意欲的に取り組めるので理解が深まりやすい。
- ・また、**49%**の学校で、実施後、公共交通の利用促進に繋がったと実感できる出来事があったと回答。
交通環境学習は着実に利用促進に寄与している!

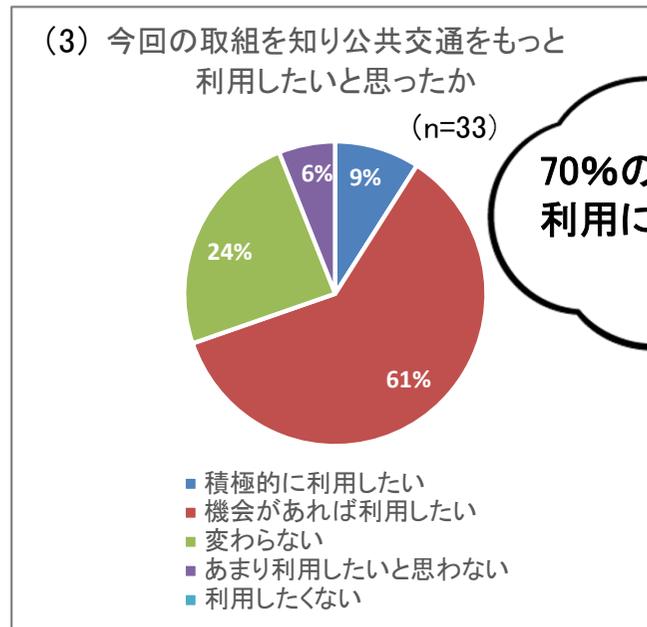
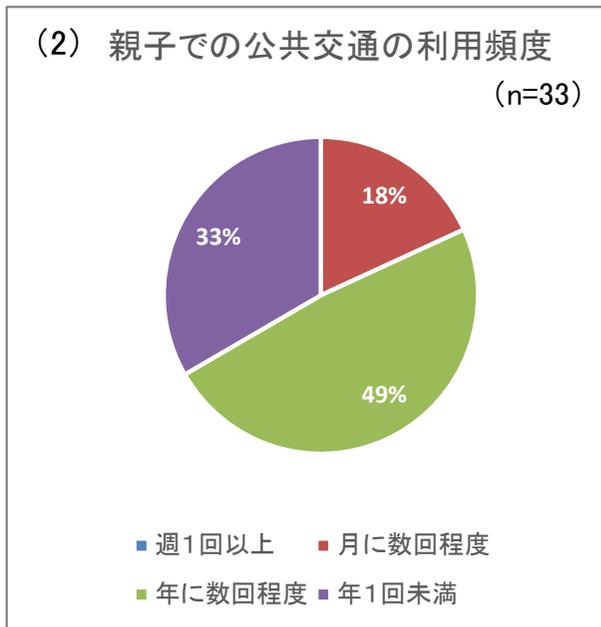
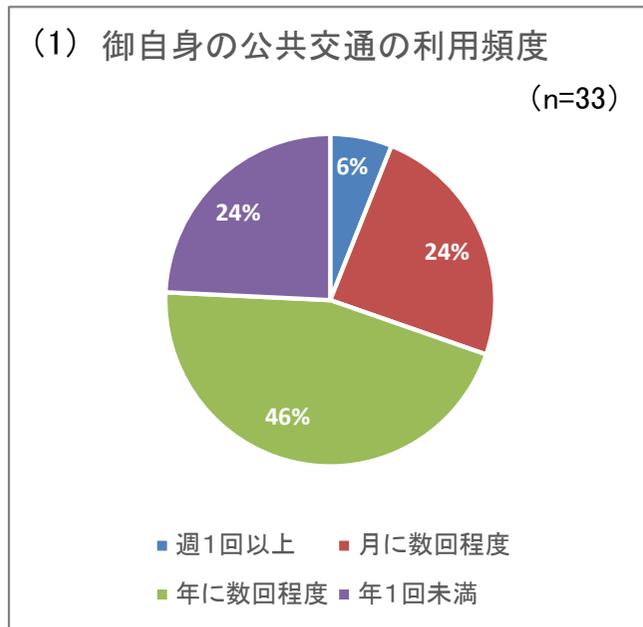
○課題

- ・「校外学習の事前授業」目的で申し込む学校が多い。入口はそれでもよいが、出口に繋がっているか?



4. 教員・保護者からの声

「4-2 R6保護者アンケート結果」



★自由記述の回答例(原文ママ)

- ・移動が車ばかりなのでまだ子どもたちは電車やバスに乗り慣れてないので機会をつくりたいと思う。
- ・親が主導で移動するのではなく、子供に目的地や手段、時刻を考えて貰って、でかけることもしてみたい

○成果

- ・現状の公共交通の利用頻度は低いが、交通環境学習をきっかけに「利用してみよう」という意識の変化に繋がっている!

- ・①児童が授業で得た知識を親に話す→②家庭で公共交通や環境問題について考える→③保護者とともに公共交通を利用する というサイクルをたくさん回していくきっかけに。

○課題

- ・「自分が免許返納する年齢になったら…」と自分事に捉えられていない方の行動変容も促していきたい。

5. 学校外でのイベント



5. 学校外でのイベント

バスの日まつりinびわこ



滋賀県交通安全フェア



- ✓ バス協会やトラック協会主催のイベントに毎年出展し、事業者協力の下、バスの乗り方教室を実施。
- ✓ 学校での学習とは異なり、未就学児にも体験してもらえるので、幅広い年代に周知できる。
- ✓ 保護者も一緒に参加するので、**保護者に対するMMIにも!** (実際に、「バスの乗り方を初めて知った」、「今度子どもと一緒に乗ってみたい」とのお声をいただいた。)



5. 学校外でのイベント

シン・しが学校支援メニューフェア



- ✓ 学校の先生へ直接アプローチできる機会があれば、有効活用。
学校行事や授業を支援する団体と教員が交流する目的で実施された県教委主催の「シン・しが学校支援メニューフェア」では、これまでなかなか実施できていなかった特別支援学級の担当教諭にも対面で事業を説明。
→令和7年度は既に4校で特別支援学級から申し込みがあり、効果を実感！

6. まとめ



6. まとめ

<押さえておきたい3つのこと>

① 教育として意味が十分にあるものにする

= 交通素材が学校教育の質的向上、コミュニティ活性化に資するように展開

② 広い地域で定着、発展していくものとする

= 各地で一定の量を実施、展開できる仕組み、体制を確保する

③ 学校側が受け身にならないようなものとする

= 単なる出前授業にしない

- ✓ 授業実施には事業者、バス協会、教育委員会など緊密な連携が必要。
- ✓ 学校MMは子どもたちのためだけではない。子どもたちにかかわる教員や保護者にも意識づけられるよう、実施体制に工夫を。
- ✓ 最終的には市町や学校側が自発的に学校MMを実施できるのが理想。自分ごとに捉えてもらえるよう、切れ目ない事業実施が大事。

御清聴ありがとうございました



本県の取組の詳細はコチラ(県HP)→

